

令和6年度 《教職員向け自己評価表のまとめ》

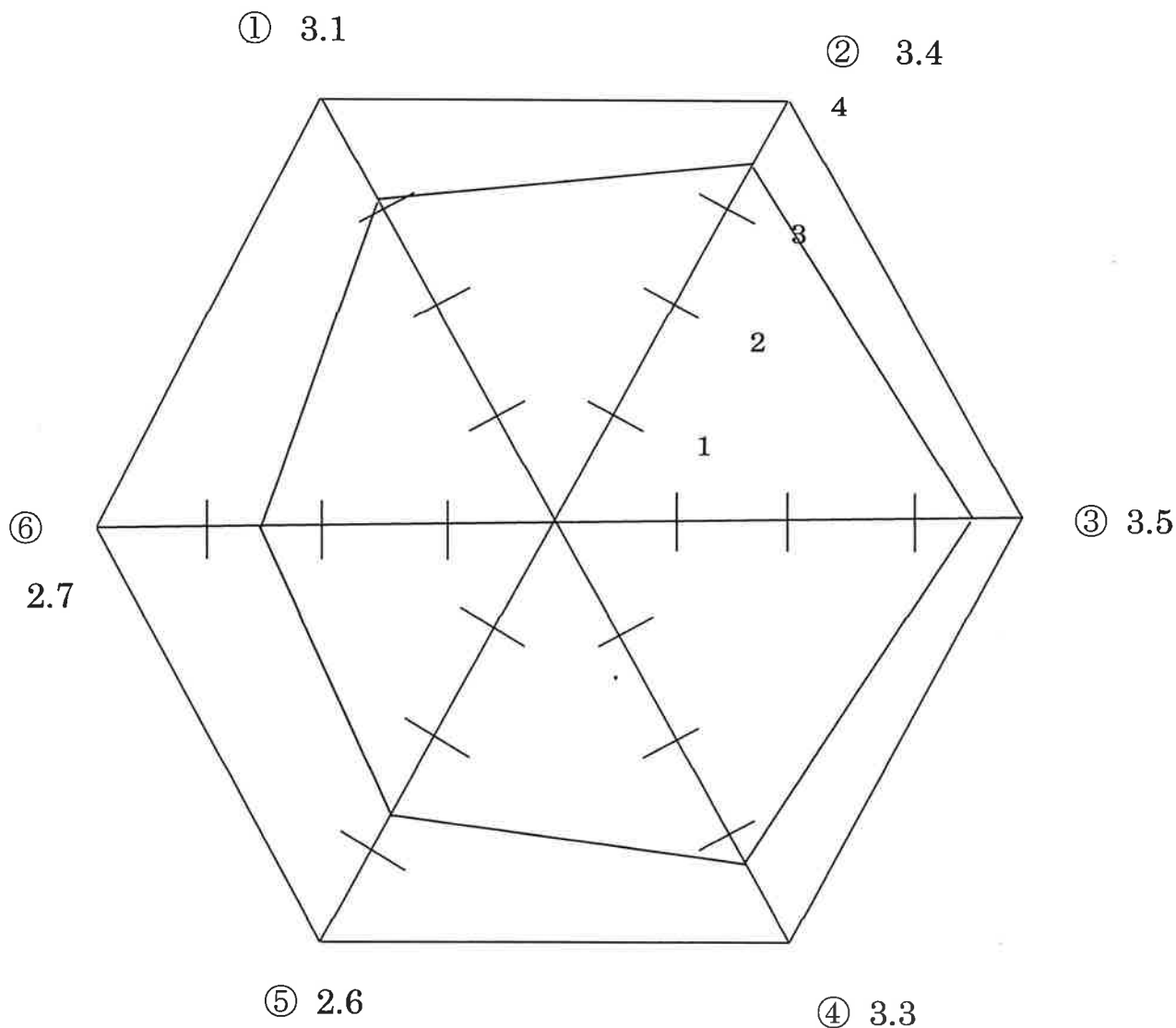
長岡天徳・聖母幼稚園

組(担任・副担任・補助・給食・事務・バス) 年齢別担当(0・1・2・3・4・5)

氏名

(評価例) 4…よくできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…全くできていない

評価項目	内容	評価	課題と今後の解決法		
① 保育の 計画性	園の理念・ 教育要領・ 教育課程	●園の建学の精神や理念、教育目標を理解している	3.4	・園の理念等、園長、保護者と話し合う事に欠けている。 より良い保育に繋げる為に、話し合いの場を設ける事を意識づけ する。その為には年間計画の中に話し合いの場を位置づけたら 良いのではないか。	
		●教育要領を踏み、園理念の理解とあわせて園長や 保育者と話し合う	2.8		
		●指導計画は、教育要領・教育課程そして幼児の実態に 即して作成し、周囲の状況や変化に対応できるものと している	3		
	環境構成	●指導計画に基づいた安全で安心感、清潔感のある 環境を構成する	3.5		・モンテッソーリ以外の環境作りはその時の幼児の興味・発達を 十分にふまえ構成にあたる。 ・今年度は園外保育に出かけ自然に触れる機会を計画、実行で きたと思うが、年中・年少も来年度は増やした方がいい。
		●幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具に 配慮し、必要な数量を用意する。	3.4		
		●幼児の発達を見通し、より豊かな活動が展開できるよう 環境を再構成する	2.9		
評価・反省	●園内外の自然への理解や、季節の変化に応じた 環境の構成をする	2.9	・自己の保育の振り返り、反省から次への保育につなげる為に、 時には全体で共有する場を設けたらよい。		
	●自己の保育についての評価・反省をさまざまな観点から行う ●自分の保育を評価・反省することで、園全体の保育に 活かしている	3.5 2.7			
② 保育の あり方	健康・安全	●日頃から園内の危険箇所配慮する	3.6	・危険箇所は常に念頭におく。職員間で話し合う機会をもうける事 で自分が気づかなかつた所を周知できるのではないか。また、常 に危機管理を持って保育にあたる。	
		●毎日の園児の健康視診を大切にす	3.7		
		●事故や怪我が発生した場合は迅速に適切な処置を行う	3.6		
	幼児理解	●幼児一人ひとりをよく観察し、幼児の思いを受け止める	3.5		・見通しをもつことは難しいことである。その為に常日頃の子どもの成長・ 発達を把握しなければならない。(子どもをみることが大切) ・子どものSOSに気づく事が重要である。一人ひとりの心に寄り添う。
		●幼児同士のかかわりの姿から、個々の成長発達をふまえ、 見通しをもって理解する	3.1		
	指 導	●幼児の思いや考えに共感し、受け入れる	3.5		・その子その子で指導する言葉、関わり方が違うという事を認識し、成長・発達 を大切に见守る。 ・自分自身の振り返りがなくては、子どもの状態を十分把握が出来ていても指 導へつながらない。
●規範意識・道徳性を培ううえで、モデルとなるよう心がける		3.3			
●幼児の年齢・発達に応じた指導や援助をする		3.1			
③ 保育者の 資質・能力	姿 勢 能 力 義 務 組 織	●ふさわしい清潔感のある服装、髪型、身だしなみを心がける	3.6	・一人ひとりの保育者が自分の思い、考えをしっかり持ち全体で 伝え、話し合える環境を作る。 ・一人で子どもを導き成長させるではなく、園全体で協力して子ど もの成長に関わる。 ・園全体で問題の共有化に努める。 ・社会人としてまた教育者としてのマナー、常識等を高められるよ う常日頃の言動を慎重に行う。	
		●職務上の情報等の秘密を守秘する	4		
		●社会人の常識をわきまえ、行動する	3.7		
		●教職員組織の協調性を大切にし、チームとしての自覚をもつ	3.5		
		●率直な意見交換を行い、組織内の問題の共有化に努める	2.8		
		●当番や役割義務など、課せられた仕事は確実に実行 ●保育者としての感性・教養を深める	3.8 2.9		
④ 保護者への 対応	対 話 交 流 クレーム対応	●保護者に幼児の様子を的確に伝える	3.1	・保護者対応は慎重に行っている。その場で解決できないものは 園長・主任、時には全員で共有し、あせらずに行う。 ・保護者への向き合い方は否定ではなく肯定的に聞くことを第一 とし、共有理解をしていく。 ・保護者対応が職員全員バラバラにならない様にする。	
		●保護者からの相談や要望をよく聞くように心がける	3.1		
		●保護者との対応には公正さを信条とし、保育時間外でも 誇りと自覚をもった言動・行動を心がける	3.4		
		●電話での対応は、わかりやすく真摯な対応に努める	3.1		
		●保護者からの話で、自分で判断出来ない場合は、園長 主任等に報告、連絡、相談をする	3.7		
		●クレームの内容によっては教職員組織全体で共有化し、 共通理解のうえで対処する	3.4		
⑤ 地域・自然 人とかかわり 地域・自然 社会との かかわり	地域・自然 人とかかわり	●地域の自然や施設、行事等について理解し、利用する	2.6	・散歩、園外保育等を多く持ち自然に触れる場(環境)を作っていく。 また、すれ違う人たちの挨拶を大切にすることから努力していく。	
		●地域の人々とあいさつや会話を交わし、親睦に心がける	3.1		
	小学校との 連携	●小学校の教育内容について理解するよう努める	2.3		・近隣の小学校との交流を増やせたら良い。 ・年中、年少児も小学校と関わられたら良いと思う。
		●地域の小学校行事や公開授業等に関心をもつ	2.4		
	子育て支援 地域への開放	●子育て支援や地域開放について、内容を理解する	2.6		・子育て支援は色々な教師が関わることも勉強になりマンネリ化 しないのではないか。
		●子育て支援や地域開放について、教職員全体で取り組む	2.4		
⑥ 研修と 研究	研修・研究への 意欲・態度	●研修会や研究会には自己課題をもって積極的に参加する	2.8	・自己課題を持つことで研修も、保育の中においても良い結果に つながると思う。	
		●自分の保育について自己課題をもって研究を行う	2.7		
		●自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や 主任、園長に相談する	3		
	保育者としての 専門性に関する 研修・研究	●幼児の発達に必要な知識を学び、現場に生かす研修・ 研究を行う	2.9		・研修を通し多くの学びや気づきがあり良かったが課題を持つ事 が出来たらよりたくさんの学びができ、次への保育につなげられ たのではないかと思う。研修や毎日の保育においても課題をもつ 事、また振り返りがあるということはとても大切であると思う。 ・保育者としての質を高める事は全てが研修会への参加という事 ではなく毎日の保育の振り返り、反省の中からも出来る。 ・積極的に研修や自己勉強ができれば良い。
		●記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	2.6		
		●教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・ 研究を行う	2.4		
●実践に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う		2.5			
●幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・ 研究を行う		2.9			
今日的課題に 関する 研修・研究	●保護者への対応に関する研修・研究を行う	2.6	・自己研修への意識を持つようにする。 ・研修への参加は積極性に欠けている。 ・研修は自分の保育の確認地点である。 ・現場で一番の基本は安全保育である。危機管理を忘れずに、環 境構成、保育を進める。		
	●地域社会との交流に関する研修・研究を行う	2.3			
	●組織内の協力・連携に関する研修・研究を行う	2.7			
	●アレルギー、成長の遅れ、問題のある幼児について理解する	3.2			
	●預かり保育や子育て支援について研修する	2.6			
	●幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	2.5			
●子どもたちの安心・安全に関する、危機管理の必要性と対応 について研修する	2.9				
	●社会情勢について関心をもち、研修する		2.6		



※平均点を出して、六角形を作ってください。

総合所見と来年度の課題と目標

- ・ 全体的に研修と研究が低くでている。自己課題を持ち自分なりに工夫し保育、教育、研修に挑む。
- ・ 積極性を色々な面に出せたらよい。
- ・ 保育の質を高める為、振り返り、反省をベースに1人ひとりを十分理解し援助指導する。また教育保育に大切な職員同士の共有も不可欠である。安全安心の保育を行っていく。